

神奈川県金融経済概況（2014年3月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。

すなわち、企業部門をみると、生産は緩やかに増加している。輸出は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、弱めの動きもみられるが、労働需給面では緩やかに持ち直している。個人消費は引き続き底堅さを増しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。この間、住宅投資は減少しており、公共投資は持ち直している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加傾向にある。

II. 実体経済

(1) 生産： 緩やかに増加している。

- ・ 輸送機械は、新型車投入効果や消費税率引き上げ前の駆け込み需要もあって、増加している。
- ・ 素材関連は、自動車や建材向け素材を中心に、緩やかに増加している。
- ・ 電気機械は、自動車向け部品などが増加しているほか、情報通信機械や重電関連が堅調に推移するなど、全体としてみれば持ち直している。
- ・ 一般機械は、半導体等製造装置や工作機械を中心に、緩やかに増加している。

(2) 輸出： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 一部地域からの需要の持ち直しに一服感がみられており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 13/12月短観における13年度の設備投資計画をみると、収益環境の改善などを受け、製造業では維持・更新投資が継続しているほか、非製造業でも新拠点・新店舗の設置を計画する先がみられるなど、引き続き増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 弱めの動きもみられるが、労働需給面では緩やかに持ち直している。

- ・ 14/1月の有効求人倍率は前月並みとなった。なお、13/12月の現金給与総額は前年を下回った。

(5) 個人消費： 引き続き底堅さを増しており、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もみられている。

- ・ 百貨店売上高は、高額品の販売増が続く中、雑貨類や家庭用品の売上が伸び、全体として持ち直している。
- ・ スーパー売上高は、概ね横ばいの動きとなっている。
- ・ 家電販売は、テレビや白物家電を中心に、引き続き底堅さを増している。
- ・ 乗用車販売は、強めの動きとなっている。

《参考》

- ・ 県内ホテル・旅館の稼働状況をみると、観光需要は回復している。

(6) 住宅投資： 減少している。

- ・ 住宅着工戸数は、減少している。もっとも、需要は底堅い状態が続いている。

(7) 公共投資： 持ち直している。

- ・ 14/1月の公共工事請負額は、前年を上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出：引き続き増加傾向にある。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、不動産・住宅関連向けの伸びが続いている。中小企業向け貸出にも動意がみられており、引き続き増加傾向にある（貸出金末残前年比：13/12月+0.5%→14/1月+0.2%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、低下傾向を辿っている（月末貸出約定平均金利前月差：13/12月▲0.010%→14/1月▲0.003%）。

(2) 預金：引き続き増加傾向にある。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金が順調に増加していることなどから、引き続き増加傾向にある（実質預金末残前年比：13/12月+2.9%→14/1月+2.8%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。